

令和7年度第3回太宰府市子どもの権利条例検討部会 議事録（要旨）

日時：令和7年9月30日（火）午後6時00分～午後7時05分

場所：太宰府市子育て支援センター 多目的室

出席委員：大西部会長、杉本部会員、伊藤部会員、二田部会員、田中部会員

（以上5名）

欠席委員：野中部会員

市関係出席者：松尾子育て支援課長、大塚係長、高松参事補佐、行武主任技師、外尾

傍聴者：5名

議題：①子どもの権利に関するアンケート進捗について

②子どもの権利に関する意見交換ワークショップ案について

開 会

○事務局

挨拶。

○部会長

挨拶。本日の議題は2点。アンケートの進捗報告とワークショップ案について協議していく。

○事務局

スケジュール確認。これから令和8年度末にむけて条例の制定を進めていくところ。

[アンケート進捗説明]

○部会長

高校生と保護者についてはアンケートの回収が進んでおり傾向が見えてきているという状況。

保護者向けアンケートで18歳未満の子どもがいるかで、いないと数名回答しているの

は、祖父母が回答しているのか。

○事務局

アンケートは学校連絡アプリで保護者へ配信している。間違って回答してもエラーが出るわけではないので、誤回答の可能性もある。

○部会員

自分の子どもではない保護者の方もいるので、その方が回答した可能性もある。

○部会員

小学生、中学生向けアンケートの中の「自分ことは好きですか？」の回答で、どちらでもないの選択肢はなかったか。小学生、中学生と高校生で選択肢は違うか。

○事務局

小中学生と高校生で選択肢は同じ。選択肢はあるが、選択されていないとデータとしてあがってこない。

○部会員

大人の方たちへは子どもの権利については、あまり浸透していない感じがする。

○部会長

保護者向けのアンケートの中で、「子どもの権利は大人と比べてある程度制限されても仕方がないと思う」というところと、「義務や責任を果たしてこそ認められる」というところが、「ややそう思う」という回答の割合が高い。子どもの権利をどうとらえてあるのかなと思った。何かをしないと対価として得られないものとして認識されていたり、制限されても仕方がない、コントロールできるものとの認識が、一般的なのかもしれないなと感じる。と考えると、むしろ条例つくりの時は、一般的な認識の状況を踏まえてどういう意味で条例があるのか、子どもの権利とは何かということをしっかり説明していかないといけないという結果になっている。

○部会員

想像以上に高校生、しっかりと答えてくれている。

高校生のアンケートの回答において「子どもの権利のうち大切だと思うものは何か」の自由記述として、「十分な食事をとって、季節にあった服を着ることができること」

と記述しているのを見て、意図が伝わっており、きちんと答えてくれていると思った。

○部会員

高校生のアンケートの自由記述で「人の意見をすぐに否定しないこと」等リアルな意見だと思う。

○部会員

高校生のアンケートで、「楽しいことや幸せだと思うことがある」と多くの人が回答している割には「自信を持って行動できる」との回答はあまり多くない。

○部会員

これまで家族といるのは普通の感覚でしたが、高校生のアンケートの「幸せを感じるとき」の回答で「家族といふとき」という回答があるのはよい。

○部会長

続けて議題2 ワークショップ案について説明をお願いする。

○事務局

[ワークショップの説明]

○部会員

ワークショップの間、保護者はどうしたらよいか。

○事務局

周りに椅子を置いて見学していただけるようにする。

○部会長

たくさん子どもたちから意見ができるといいなと思う。

学年もばらけたらいいなと思う。小学生だけにならないようになるといいなと思う。

○部会員

グループ分けの学年は、ばらばらにするか。

○事務局

事前にはばらばらに分けておく。

○部会員

小中学生は部活動等があるから、参加者募集の声かけをしていかないといけない。

○部会長

子どもの権利に関するワークショップの「こんな太宰府になつたらいいな」というところは漠然としているので、ヒントが必要なのかなと思う。

○部会員

「こんな太宰府になつたらいいな」というテーマは、小学生はテーマパークのようなものをイメージするかもしれない。

○部会員

ファンタジーがあるのももいいが、こんな体験ができたらいいなというような意見が出たらいい。物理的なものももいいが、こんな人がいたらいいな、こんな機会があつたらいいな、というようなソフト面での意見が出るとよい。声かけの仕方によって意見の出方は変わると思う。

○事務局

ファシリテーターが各グループにつく予定。

○部会員

人の話を聞きながら、自分も話すとなると5~6人くらいのグループがよいのではと思う。参加者が少ない場合は、中学生は中学生同士で固めた方がいいのでは。

○部会員

小学生は中学生が話することで考えるきっかけになる場合もある。

○部会長

漠然と意見を聞くと何を答えたらしいかわからないため、学校に関すること、地域に関すること等、カテゴリーを分けながら聞くといいのかもと思う。生活圏は学校がメインになり、学校以外の地域のこと、あとひとつ家庭に関することなど、もっとこういう風になつたいいのに、みたいに意見が出たらいいと思う。

紙飛行機には1つだけ書くとしたら、意見がたくさんでたらどうするか。

○事務局

意見は一つだけ書くようにしているが、どうか。

○部会員

最終的にまとめはどうするか。紙飛行機をカテゴリー別に分けて、一番伝えたい意見を書いてはどうか。

○事務局

ファシリテーターが読み上げて「こんな太宰府になったらいいな」というところでまとめていく。

○部会員

紙飛行機にカテゴリー別に分け、その中で自分の中のナンバー1を決めたらどうか。

○事務局

飛行機の翼に書いてもらう予定。

○部会員

カテゴリー別で折り紙のカラーを変えてはどうか。「家庭は赤」等。

○部会長

せつかくだからたくさん飛ばしてもいいかなと思う。

○部会員

確かに子どもはたくさん飛ばしたいと思う。

○部会長

色分けしてたくさん飛ばしたらいいとおもう。ワークショップの作品を掲示する予定はあるか。どこかに掲示できたらいいと思う。

○事務局

掲示に関しては検討する。

○部会員

学校はテトルでの配信のみか。チラシをもらっていきたい人がいるかも。市の広報誌は子どもは見ないし。

○部会長

学校に配布するのは大変か。

○事務局

学校の状況もあるためこの場では決定できない。

○部会長

できれば直接子どもに配れたらよいが。

○部会員

よく考えると、これも一つの権利。親に情報を見せられてではなく、自分が情報を手にして自分が行きたいと親に言うことも一つの子どもの権利。

○部会長

子どもが主役なので子どもたちに直接届けないといけないので、検討をしてほしい。

もう一点、今回の「子どもの権利に関するワークショップ」の模擬ワークショップを筑紫女学園大学の学生を対象にして10月に行う予定ですすめていく。

○部会長

次回の検討部会は令和8年1月予定。